

「アクションの連鎖」が起こる施設をめざして

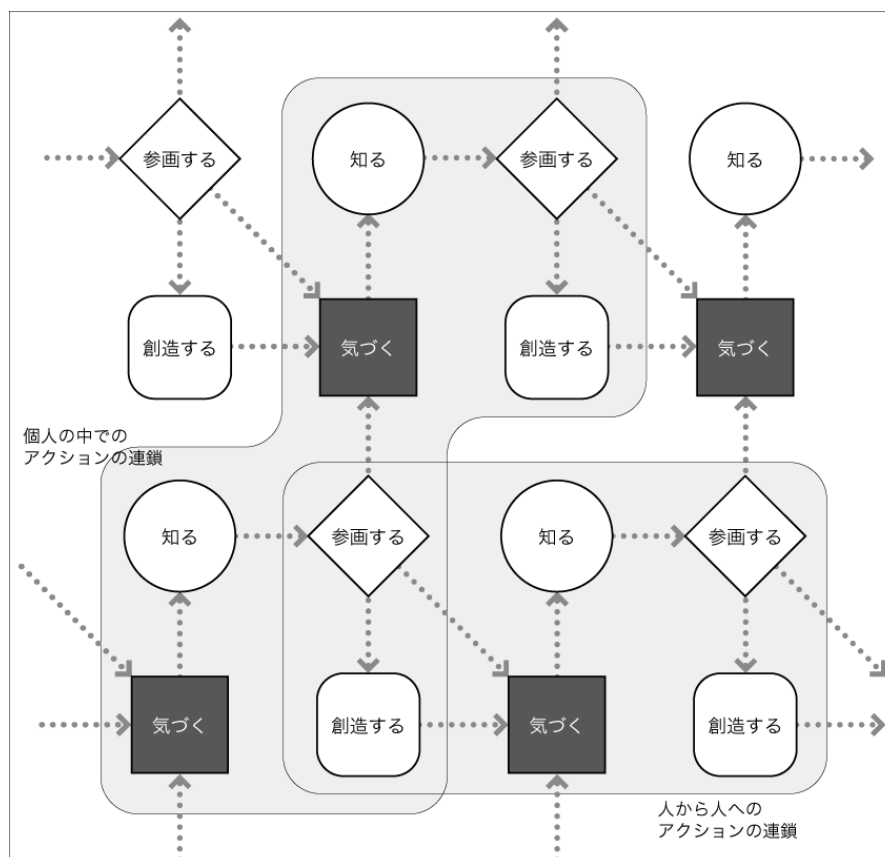
社会における価値観の多様化やインターネットに代表される情報化が急速に進む中、各個人が自己の責任において、主体的に判断し行動することが求められています。地域社会においても、さまざまな地域の課題について個人や地域の力を集結し、課題解決を図ることができるような自立した地域社会の形成が不可欠である。

このような状況に対応するためには、できるだけ正確で十分な情報を得た上で、一人ひとりが自らの人生をより豊かなものとするための主体的な学習機会や、地域の課題を解決する上での判断材料を提供し、その活動を支援する仕組みの構築が求められている。

利用者が日常生活において、自主・自発的に読書や学習を行うことや、課題が発生した場合、その課題を解決するための過程では、対象に興味を持つことと同時にさまざまな「アクション」のプロセスを経ることが重要である。武蔵野プレイスは、この「気づき」から始まる「アクションの連鎖」が起こり得る「場」を提供し、支援していくことを目指す。

次頁の図 1-1 で、アクションの連鎖が起こる様子を例示する。

図 1-1 アクションの連鎖



○『気づく』

人が行動を始めるためには、『気づく』、すなわち、社会や文化の“中で”対象が「おもしろい」「必要だ」と感じるきっかけが必要である。武蔵野プレイスでは、気づく機会ができるだけ数多く発生するように、イベント開催や情報発信などを行っていく。

○『知る』

気づきをきっかけとして対象について自らの知識を問い直すことこそ、『知る』ことである。武蔵野プレイスでは、図書館による多くの図書資料、情報データベースやその他の施設機能を含めたレクチャー、ワークショップなど、知るための環境を提供する。

○『参画する』

知識は、社会・活動で実践することにより、自らのものとなる。武蔵野プレイスでは、その実践を行うための市民活動や個人の活動の場を提供し、活動に『参画する』過程を支援する。

○『創造する』

参画し、実践することによって、知識は修正、追加が行われ、新たな知識を『創造する』。武蔵野プレイスでは、創造された知識を編さん、成形、発信・発表していくための環境を提供する。

4 3つのミッション

武蔵野プレイスは、利用者のアクションの連鎖が起こることで、図書館機能、生涯学習支援機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能の4つの機能が複合的に活用されるよう、以下の3つのミッションを軸に支援を行う。

○ 情報アクセス支援

・必要な情報にアクセスできるように支援を行う。

市民のニーズに合わせた有効な情報を、社会の変化に対応しながらその時代や目的に即した分類や表現によって、提供し続けていく。

○ 課題学習支援

・利用者が自らの課題を学習できるように支援を行う。

地域の人々と共に興味や関心、課題を共有していくことで、自らで学び、深め、解決していこうとする機会を常につくり出していく。

○ 地域社会活性化支援

・地域社会の活性化について支援を行う。

共通の興味や関心、課題を持つ人々が出会い、交流し、コミュニティが形成され、さまざまな活動を通して地域社会が活性化していくように支援を行う。

4つの機能に3つのミッションをくみ合わせることによって互いに連携が生まれ、全館のつながりが縦横に編み込まれていく。(図 1-2 参照)

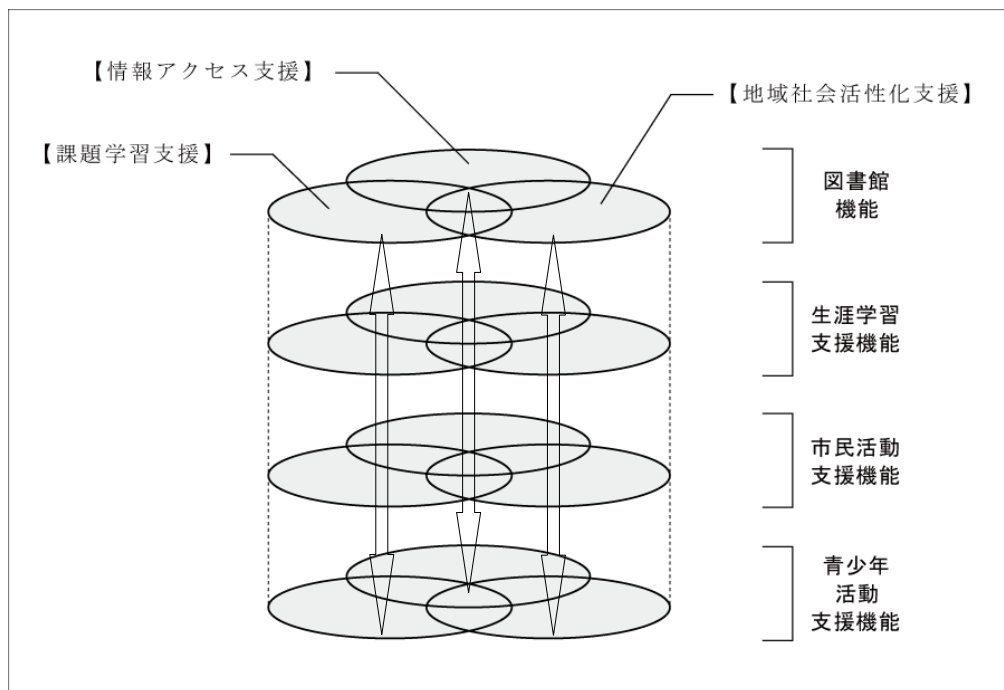


図 1-2 武蔵野プレイスの3つのミッションと4つの機能の関係

5 全館で展開される3つのミッションの全体の事業イメージ

3つのミッションで共通(中心)となるのは、「情報や資料のレファレンス」である。「レファレンス」とは、情報や資料を求めている利用者に対して、武蔵野プレイス全館として「案内・調査・相談」を行う業務である。

図書館機能の中でのレファレンスのみでなく、施設で行われる活動の中から、カウンターによる対面コミュニケーションや、インターネットメールやホームページ、電話などを介した通信コミュニケーションなどあらゆる機会を捉え、利用者のニーズ(興味あるテーマや課題)を的確に把握し、「情報や資料のレファレンス」に、全館で取り組み、各機能のレファレンスを一体化することによって、利用者は、必要な情報へのアクセスや、課題解決のための学習を比較的容易に行うことが可能となる。

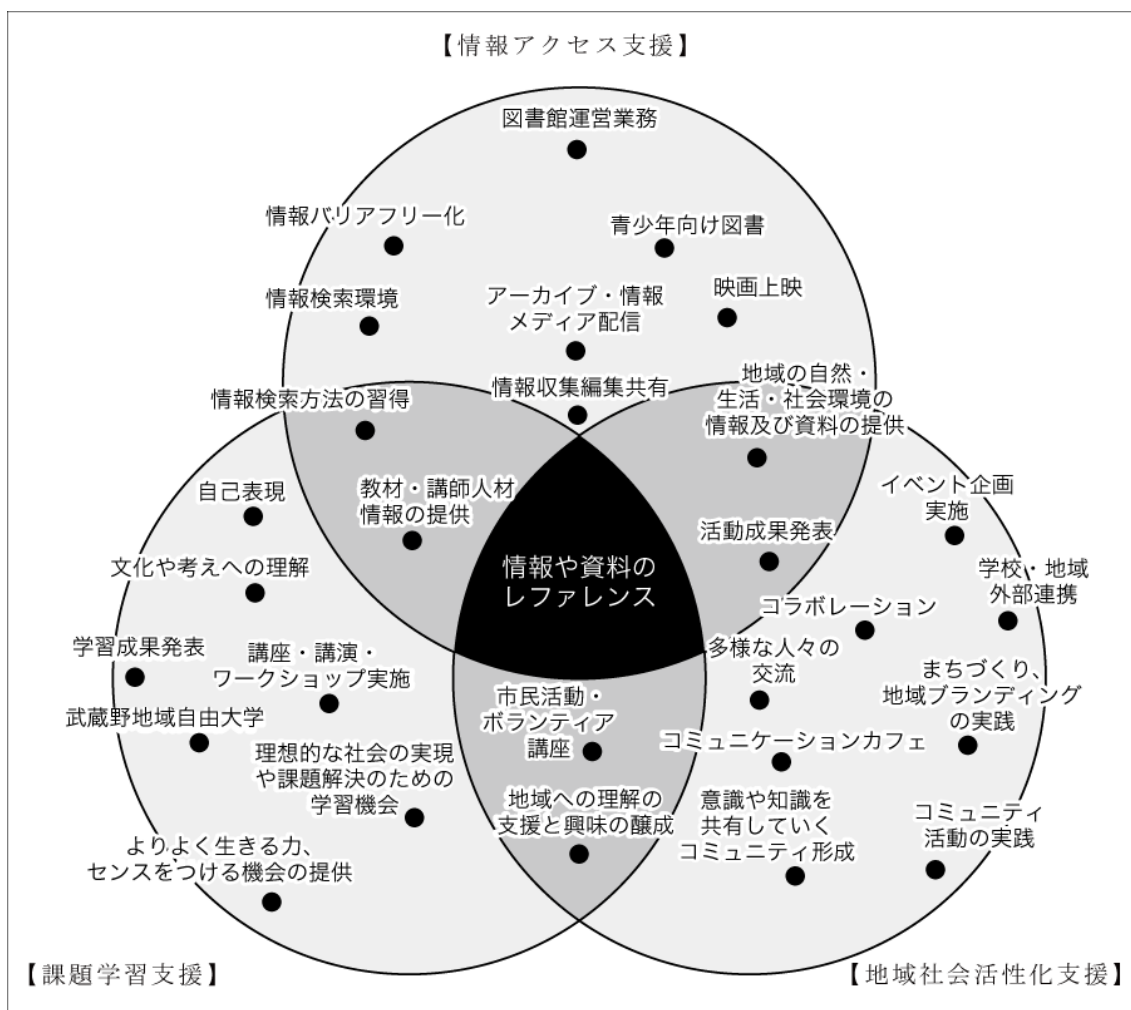


図 1-3 全館の事業イメージ